

とよたち

美肌通信

7月号

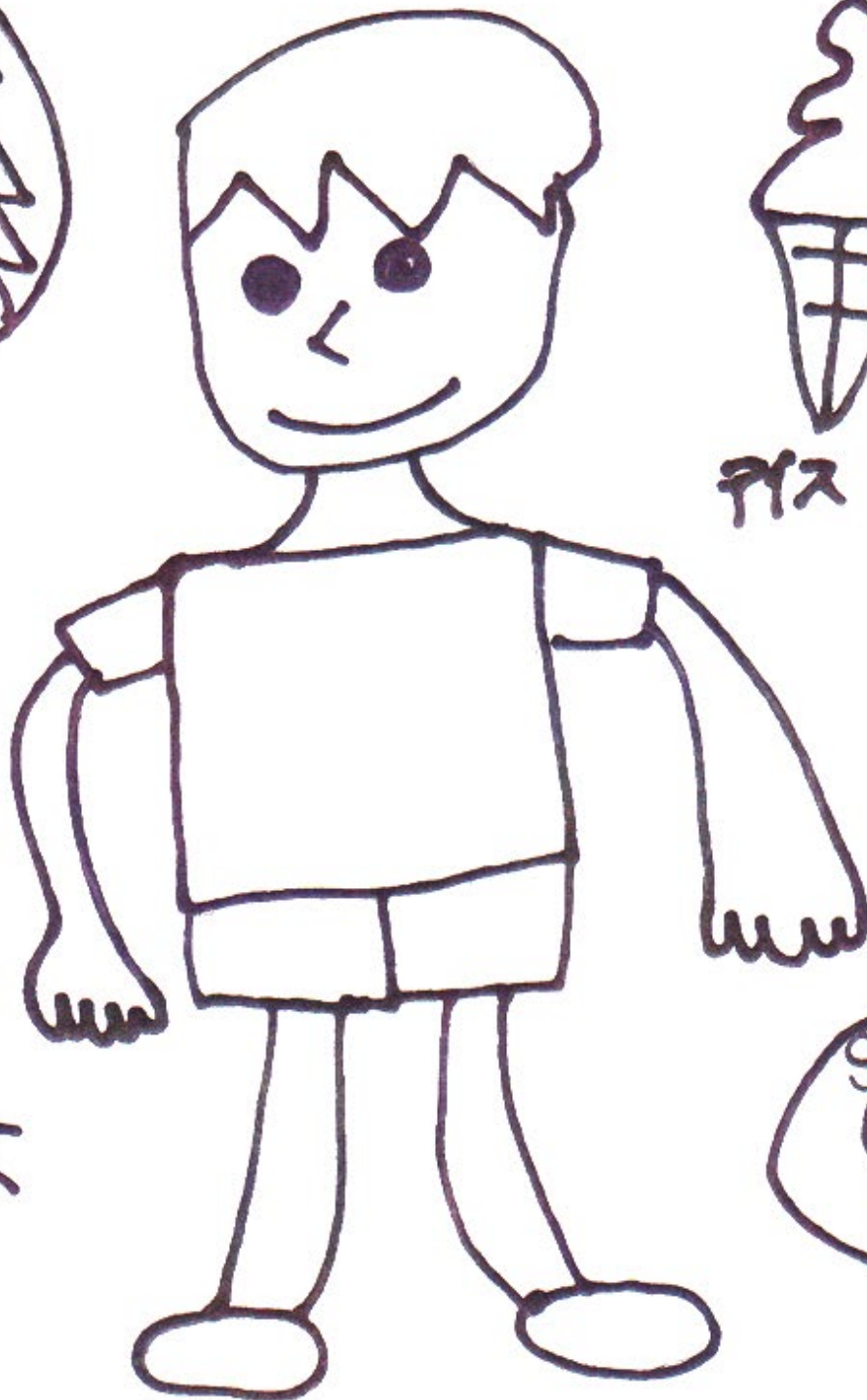
Vol.120



スイカ



アイス



サカナ



July

今月号のとまたち美肌通信の

表紙は、気持ちよさそうに泳ぐ
さかたと、元気いっぱいの子！

暑くなってきた。7月にぴったりの、

スイカとアイスがとってもおいしそう😊

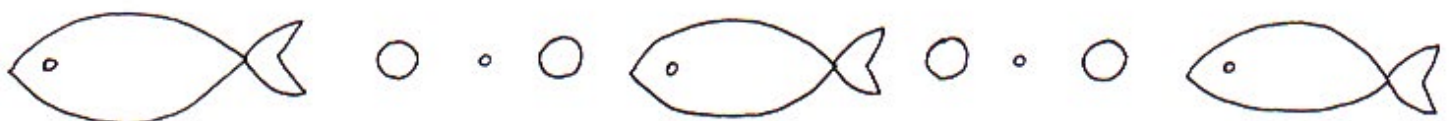
友達とサッカーをやる事が好きで、

おりがみを作る事が得意な男の子が
描いてくれました！

ありがとうございます。

院長はじめスタッフ一同

バリエーション感謝いたします。



名僧と詠われた趙州從諗^{じょうしゅうじやうしん}という禪僧が唐の時代にいた。ある時弟子の一人が師に尋ねた。「大困難がきたらどうしますか?」。趙州は一言「恰好^{かっこう}」と返した。その「趙州録」に記されている。「恰好^{かっこう}」とは、「恰^{あた}も好^よし」ということで、丁度良いという意味ですがこの言葉の解釈の一つに「よしきた!!」という捉え方があります。

人類の多くが今は大変な時代だと認識している。ある意味、東日本大震災もリーマンショックも単一国から複数国レベルであった。しかし COVID-19による被害は医療のみならず社会保障、経済から教育と多岐に至るまで、また先進国や発展途上国の区別なく、世界規模で危機的状況を招いていることは言うまでもない。唯一、東日本大震災の時にみられたライフラインの破綻は、今の所起きていない事が救いであるが、逆にこの事が一部の人の危機感の低さに影響を及ぼしている感は否めない。

いずれにしてもこの様な緊急事態の時、国や政府は果たしてどう対処するのだろうか。私の思う所としては、個人や家庭又は地域レベルで保障をしていくことは絶対にないと思った方が

良いであろう。しかしながら往々にして私達は国や政府への要求ばかりエスカレートさせてしまう。更に追い打ちをかける様に野党は、これに迎合しあれが足りない、これがダメだ」と聞こえの良い言葉を並べて政治を安易な方向へ変けてしまう危険性が高い様に思う。

1961年43才のジョンFケネディーは大統領就任式でアメリカ国民に向けてこう訴えた。

『国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるかを問うて欲しい』。ケネディーの大統領として真価が発揮されたのは、言うまでもなくキューバ危機の解除に他なりません。この大事件は世界が最も核戦争に近づいた13日間でありました。最終的に彼の下した決断は人類を東西冷戦による核戦争から救った世界の誰も成し得たことのない、リーダーシップでした。翻って考えてみると、COVID-19の問題に拘らず昨今の日本社会の有リ方はいかがでしょうか。自己の権利を過度に主張する大衆と、それに迎合する政治家によるホピオリズムがめぐりめぐって日本人全体を貧弱にしてはいないでしょうか。

冒頭に示した「恰好」との心の持ち様になる
為には平穩からの準備を怠ってはならない。

「恰好」とは人生に起きる「まさか」という危機に
へなへなとなつてはいけな、
「来るなら来てみる」と
応いることである。

その姿勢を持てるかどうかで、この一大事を乗り
切ることが出来ると、私は自分の胸に問うてい
ます。

院長、持